

大学生の

前原に 縁側を作りたい

I want make
“ENGAWA” for students
in Maebaru

文責: 松本崇人

2018.10.2

九州大学21世紀プログラム3年

学生団体iTOP 第8代代表

Our 願い Wish

この企画を始めた理由

- 学生の街を作りたい。
- 学生と大人の化学反応が見たい。

学生の街ってどこ？

東京なら、渋谷、新宿、御茶ノ水、とか。「学生街」と呼ばれる街ってたくさんありますよね。

でも福岡の学生街ってどこにあるんだろう、という疑問です。天神か博多か。

九大生にとっての学生街ってどこなんだろう。3年暮らした私にもわかりません。

「最後の夏休み」なんて揶揄される大学生生活も、全力で遊んで、全力で勉強して、全力で過ごすから価値があるはず。

そんな全力を出せる街ってどこにあるのでしょうか。

天神よりも圧倒的に近いこの街を学生にとって第2の故郷と呼べる場所にしたい。

筑前前原ではしゃぎたい。

呑み行こう！九州大学の学生にとっては、基本的に九大学研都市駅より東側の街に行くことを意味します。天神や赤坂で呑むのも面白い。

だけど、すぐ近くの筑前前原でも、また違った面白さが。その面白さを知って欲しい。

この街にいるいろんな人と話をして欲しい。

だから、この街に学生を呼ぶことにしました。

学生とまちの人が、この街で、一緒に飲んでいる景色を日常にしたい。

どうやって学生の街にするのか

やること

What we do

学生が集まる口実。

学ぶか、あそぶか、食べるかです。

テスト前に集まって勉強する。

暇だから呑みに行く。

サークルの仕事をこなす。

集まるのってそういう瞬間です。

だったら、

そういう口実で集まるのに

「最適な場所」 = 「筑前前原」

っていう方程式を
作り上げればいいはずです。

若干交通機関の不便さはあれど、
冷静に考えれば天神より近い。

勉強に、遊びに、タスクに。

本気になれる何かを

この街で見つけ、作って、

発信して行くつもりです。

シェアハウスと、アピール。

住めばいいんじゃない？

集まる場所といえば、
場所代のかからない
「友達の家」が第1位。

じゃあ、この街に住んでる
友達を増やせばいい。

ということで、シェアハウスを
作ることにしました。

人が集いたくなるような

「シェアハウス」をこの街に。

面白い人が住んでる家。
アイディアが生まれる部屋。
人と居るのが楽しい空間。

この街に来たいと思える魅力を
増やせるようなシェアハウスを
作りたいなと思っています。

筑前前原に来たくなる「何か」。

発信について

About spreading information

人の顔が見える店。

チェーン店に少ないこと。

店主の顔が見えること。

筑前前原に多いこと。

店主さんと一緒に飲めること。

お客さんと話しながら飲めること。

決して大きくない店だからこそ

ローカルな雰囲気を楽しめる。

その言葉にし難い魅力に

気づいてもらうには、

まず来てもらうこと。

来てくれた先に、

学生ながら「行きつけのお店」が

できて来て、

顔見知りが増えて来て。

自分の街になって行く気がします。

その厚みが、

若者に貴重なのかも。

アピールすべきまちの魅力。

魅力を知ってもらうために。

最初にお店に入る理由は、

値段かもしれません。

「飲み放題」や「食べ放題」。

わかりやすい価値で

引き付けるのもあり。

まずは、来てもらうこと。

来て、人と話して、

そこで初めて、この街の魅力に

気づけるはず。

キャンペーンを打ち出すなり、

クーポンを配るなり。

学生が最初に「来たくなる」

理由さえ作れば、

あとは、このまちの魅力で

「常連さん」を増やしていける。

そう考えています。

面白い人が集まる家。

シェアハウス

About spreading information

「食べる」と「住む」。

面白い人がいる友達の家

人が集まるには、「核」が必要。
肝として選んだのが、この
「シェアハウス」です。

もちろん住むのには
心地よい空間ですが、
それ以上に人が集まる場所に
したいです。

学生が集まるのは、
食べる時、遊ぶ時、勉強する時。

この3つに最適な空間を
この家を実現したい。

そうやってできた素敵な空間に、
面白い九大生が集ってくれば、
間違いなく、このまちの「核」に
してみせます。

「共食」へのこだわり。

ご飯を食べるときこそ、
人の会話に花が咲くとき。

大学生には、
まちの人だけでなく、
学生同士でも
「価値観の共有」をしてほしい。

学生がこの部屋と一緒に
ごはんを作って、
一緒に食べて、

雑談をして。

その先に、
いろんな発見があると
思っています。

住む人同士が作るにも、
お客さんが作るにも、
共食するのに、最高の空間を。